

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 4日現在

機関番号：11501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652048

研究課題名（和文） 外国にルーツを持つ母親のためのライティング・ストラテジーに関する基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental study on communication strategies in written Japanese for foreign mothers

研究代表者

内海 由美子 (UTSUMI YUMIKO)

山形大学・基盤教育院・准教授

研究者番号：20292708

研究成果の概要（和文）：本研究は、幼稚園・保育園（以下「園」）や小学校との間で行われる書き言葉コミュニケーションにおいて、外国人保護者が直面する問題について、連絡帳を分析することで明らかにすると同時に、日本語教育の立場から外国人保護者に対する学習支援について提案することを目的とする。

本研究では、外国出身の母親と日本人の母親に対して聞き取り調査を行うとともに、連絡帳を借用し、音声データと書き言葉データの収集を行った。聞き取り調査の結果からは、園生活に必要な通常の伝達（欠席、遅刻、体調、食事等）は日本人の母親同様、外国出身の母親も行っていることがわかった。しかし、問い合わせや相談、挨拶やお礼等の儀礼はほとんど行っていない。また、書くことに対して自信がないことから、子育てにも自信が持てない母親の姿も明らかになった。つまり、連絡帳による書き言葉コミュニケーションでは、園と外国出身の母親は、子育てに関して十分な協力関係を築くことができないということである。

子どもが小さいときほど、園とのやりとりは頻繁に必要である。外国出身の保護者が園と信頼関係を築き、自信を持って子育てができるよう、書き言葉に焦点を当てた学習支援のためのシラバスと教材の開発が急務である。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify problems in written communication between foreign parents and Japanese staff members at kindergarten and day-care centers, and teachers at elementary schools in Japan, through analysis of notebooks for communication called '*renrakucho*', and to suggest how to support foreign parents from the aspect of Japanese language education.

From the results of interviews with foreign mothers and Japanese mothers, the topics, the strategies they use, and problems on written communication between the mothers and staff members at kindergarten and day-care centers are analyzed. The foreign mothers usually provide information about daily life of their children; an absence, a tardy arrival, illness, meals, and so on, by writing messages in a *renrakucho*, as the Japanese mothers do. However the foreign mothers rarely write any kind of inquire, counseling, or greetings in comparison with Japanese mothers because the foreign mothers do not have enough confidence in their Japanese writing abilities. From the viewpoint of communication through *renrakucho*, it is clear that the foreign mothers cannot fully cooperate with the Japanese staff members at kindergarten or day-care centers in the process of raising their children.

The younger children are, the more frequent communication becomes necessary between parents and staff members. Foreign parents need to be provided a focused course in Japanese writing, and the syllabus and study materials for the course should be developed as soon as possible.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	0	600,000
2010年度	500,000	0	500,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	150,000	1,750,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本語教育

キーワード：教授法、カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

1980年代後半より、日本人男性と結婚して日本に定住する外国人女性（以下、「配偶者」）が増え続けている。その多くが教育機関での日本語学習歴はない。ボランティアの教室で学習した者、日常生活の中で自然習得した者が大半を占める。配偶者を受け入れ始めて20年を経た地域では、日常生活に支障のないコミュニケーション能力を持つ配偶者が現れている。こうした配偶者は、子どもの入園・入学、就職活動等、ライフステージの変化を機に、より上のレベルの日本語学習を希望する傾向があるが、中級～上級レベルの日本語学習支援を行う教室はきわめて少ない。

本研究者は、平成19・20年度の山形大学公開講座等での学習支援をとおして、日本語中～上級レベルの配偶者の作文や、プロダクションに関する学習ニーズを分析した。その結果、中～上級の日本語力を有する配偶者の学習ニーズは、自分の気持ちや意図を的確に日本語らしい文脈で表現することであり、アカデミック・ジャパニーズともビジネス日本語とも異なるものであることがわかった。また、ライティングの学習に対するニーズが高く、幼稚園・保育園（以下、「園」）や学校場面でのライティングが主なニーズとしてあげられた。これは、子を持つ配偶者が現在困難を感じている場面でもある。

富谷・内海(2008)^{注1}によれば、自然習得によってある程度のコミュニケーション能力を身につけることは可能であっても、それと同等の読み書き能力の習得は不可能である。つまり、配偶者が自身の生活の質を向上させ、地域社会において自己実現を図るためには、読み書き能力の習得が欠かせないものの、それは自然習得が困難であるため、学習支援が必要であるということが言えるのである。しかし日本語教育には、配偶者のライティングに関するニーズ分析もなければシラバスや教材の蓄積もない。

注1 富谷玲子・内海由美子(2008)「第2章第3節外国人配偶者(女性)調査」『平成19年度文化庁委嘱外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発報告書』60-78、社団法人日本語教育学会。

2. 研究の目的

本研究は、外国にルーツを持つ母親、つまり外国出身の母親に焦点を当て、そのライティング・ニーズを調べ、そこで求められるライティング・ストラテジーを明らかにすることを目的とする。そこから得られた成果を、教材や学習活動の開発のための基礎資料とすることで、ライティング・ストラテジーの習得支援に資することを目指すものである。

3. 研究の方法

(1)ライティング・ニーズの調査

①外国出身の母親を対象に、園や学校場面における日本語のプロダクションに関してニーズの聞き取り調査を実施し、ライティングとスピーキングに関する内側のニーズを調べる。

②外国出身の母親と接触した経験のある職員（園・学校）を対象に、聞き取り調査を実施し、保護者に期待するライティングとスピーキングに関する外側のニーズを調べる。

③外国出身の母親に対する聞き取り調査の結果と比較するため、日本人の母親を対象に、園や学校場面における日本語のプロダクションに関して聞き取り調査を行う。

これら聞き取り調査の調査地は山形県、山梨県、神奈川県とする。聞き取り調査は各1時間で半構造化インタビューの手法を用いる。協力者の了解を得てICレコーダで録音し、音声資料を文字化する。

(2)連絡帳等の書き言葉の資料収集

外国出身の母親、日本人の母親の連絡帳を借り受け、画像資料と文字資料を作成し、場面・トピック、談話の構造、ストラテジーを

洗い出す。また、日本語母語話者と非母語話者それぞれの特徴を分析する。

4. 研究成果

(1) データの収集と分析

平成 21～22 年度の 2 年間に、山形県山形市・米沢市、神奈川県川崎市、山梨県甲府市を調査地として、外国出身の母親 25 名（漢字圏出身者 14 名、非漢字圏出身者 11 名）、日本人の母親 4 名、外国にルーツを持つ子どもを担任したことがある小学校教諭・幼稚園教諭・保育士 10 名に聞き取り調査を行った。

聞き取り調査で得られた音声データは全て文字化し、連絡帳の伝達内容、外国出身の母親にとって困難な伝達行動、書き言葉コミュニケーションを回避するためのストラテジー等を分析した。

また、母親に対する聞き取り調査時に連絡帳の提供を依頼したところ、24 冊の連絡帳を借りることができた。連絡帳は画像データにするとともに、ワープロ入力して文字データを作成した。

代表者・分担者の 3 名で、日本人の母親の連絡帳を対象にデータセッションを繰り返し、書き言葉コミュニケーションの分析の枠組みについて議論し、日本人の母親の連絡帳の分析を進めて枠組みの検証を行った。その枠組みを用いて、漢字圏出身者の書いた連絡帳の分析を試行した。

(2) データ分析の結果

聞き取り調査から、連絡帳を介した伝達内容を次のように 4 つに分類した。

① 子どもの園生活に必要な通常の伝達：欠席・遅刻・早退・送迎時間・通院・投薬に関する伝達。乳児の場合には睡眠・食事・排泄・体調の伝達など。

② 園生活に関する問い合わせ：持ち物や行事に関する問い合わせ。

③ 相談：生活習慣や発育上の問題。いじめの疑いや子ども同士のトラブル等に関する相談。

④ 儀礼：挨拶・行事の後のお礼。子どもに関するエピソード。家庭での子どもの様子等。

また、聞き取り調査からは、園とのやりとり、特に連絡帳という書き言葉でのやりとりに自信がないことから、子育て自体に自信が持てなくなっている外国出身の母親の姿が浮かび上がった。

連絡帳の分析からは、伝達内容の上記 4 分類に加えて次の伝達内容も分析された。

⑤ 応答：園からの問いかけや働きかけ、体調報告等に対する返答。

漢字圏出身者の連絡帳を、記入回数、伝達内容の件数について分析したところ、日本人の母親に比べると、連絡帳に記入する回数は 5 分の 1 以下で、特に、園からの働きかけに

対する応答が極端に少ないという特徴があることがわかった。また、日本人の母親は、連絡帳でのやりとりを介して園との信頼関係作りを行っているのに対し、外国人の母親は、体調や登降園時間の変更の伝達など、必要最小限の記入にとどまっていることがわかった。つまり、書き言葉によるコミュニケーションはきわめて限定的で、日本人の母親が行うような、園との信頼関係作りのための働きかけには至っていない。

以上の結果から、園と信頼関係を築いて主体的に子育てに関与するためには、外国人の母親に対して書き言葉の習得支援が必要であることが明らかになった。

(3) 成果発表

平成 22 年 3 月 28 日に京都大学で「公開国際研究会『移民の社会統合と読み書き能力を考える』」を共同開催^{注2}し、21 年度の調査から得られた知見をもとに、結婚移住女性にとっての日本語読み書き能力の必要性と重要性について議論した。

9 月 9 日には山形大学工学部で「結婚移住助成の言語環境研究会」を開催し、子育て場面の日本語使用について議論した。

聞き取り調査の結果に関しては、2010 年度日本語教育学会秋季大会において口頭発表を行った。「子育て場面で外国人が直面する書き言葉の課題－保育園・幼稚園児の母親を対象とした調査から－」内海由美子・仁科浩美・富谷玲子

また、2011 年度日本語教育学会春季大会のパネル「教室外の世界で行われている『評価』－その多様性を探る意義－」で「幼稚園における連絡帳のやりとりに対する評価とピリ－フー外国人保護者の書き言葉コミュニケーションに対する支援に向けて－」のタイトルで内海が発表し、『神奈川大学言語研究』34 号で富谷・内海・仁科が「子育て場面で外国人保護者が直面する書き言葉の課題－保育園・幼稚園児の保護者を対象とした調査から－」にまとめた。

連絡帳の分析結果の一部は、24 年 3 月 5 日に神奈川大学の公開研究会^{注3}で「母親に必要な書き能力を考える－漢字圏出身者の幼稚園・保育園の連絡帳から」のタイトルで内海が発表した。

注2 科研費（課題番号 20401024、代表：松岡洋子）、神奈川大学学内共同研究（代表：富谷玲子）との共同開催である。

注3 神奈川大学学内共同研究奨励助成「言語政策」公開研究会「移民の人権と言語教育(1)事例研究」

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 内海由美子、仁科浩美、富谷玲子、子育て場面で外国人が直面する書き言葉の課題－保育園・幼稚園児の母親を対象とした調査から、2010年度日本語教育学会秋季大会予稿集、査読無、2010、279-284。
日本語教育学会
- ② 内海由美子、幼稚園における連絡帳のやりとりに対する評価ビリーフ、2011年度日本語教育学会春季大会予稿集、査読無、2011、85-87.
- ③ 富谷玲子、内海由美子、仁科浩美、子育て場面で外国人保護者が直面する書き言葉の課題－保育園・幼稚園児の保護者を対象とした調査から、神奈川大学言語研究、vol. 34、査読有、2012、53-71

〔学会発表〕(計2件)

- ① 内海由美子、仁科浩美、富谷玲子、子育て場面で外国人が直面する書き言葉の課題－保育園・幼稚園児の母親を対象とした調査から、2010年度日本語教育学会秋季大会、2010年10月10日、神戸大学
- ② 宇佐見洋、近藤彩、内海由美子、早野恵子、教室外の世界で行われている「評価」－その多様性を探る意義、2011年度日本語教育学会春季大会、2011年5月21日、東京国際大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内海 由美子 (UTSUMI YUMIKO)

山形大学・基盤教育院・准教授

研究者番号：20292708

(2) 研究分担者

仁科 浩美 (NISHINA HIROMI)

山形大学・大学院理工学研究科・准教授

研究者番号：10431644

黒沢晶子 (KUROSAWA AKIKO)

山形大学・基盤教育院・教授

研究者番号：50375333

(H21→H22：連携研究者)

(3) 連携研究者

富谷 玲子 (TOMIYA REIKO)

神奈川大学・外国語学部・准教授

研究者番号：40386818

(H21→H22：分担研究者)